

「ニコ超」進捗状況を報告

11月18日
本部会議室
出席委員等16人

来年4月25、26日に千葉・幕張メッセで開かれる「ニコニコ超会議2015」に、日遊協主催のブース「パチンコ&パチスロフェスタ in ニコニコ超会議2015」を出展することで、協賛依頼のためのメーカー団体・企業への説明など、計画の進捗状況が報告された。

出展の目的は、ニコニコ超会議に集まるノンユーザーの若者層に対してパチンコ・パチスロに触れるきっかけづくりを行い、新たなファン獲得を図ること。ブースは20小間(180㎡)で、遊技機展示・試打、初心者コーナー、ステージイベント、協賛メーカーPRコーナーなどが設けられ、2日間で5000人の来場を予定している。試打エリアへの18歳未満の入場はお断りする。

「ニコニコ超会議」は、ニコニコ動画の(株)ドワンゴが主催する参加型複合イベントで、様々なサブカルチャーが発信される。今年4月26、27日に行われた「超会議3」に



ニコニコ超会議へ出展するブースの進捗が報告された遊技機委員会

は、会場来場者数が約12万5000人、生放送(ネット)視聴者数が約786万4000人に達した。この中で日遊協は「パチンコ&パチスロフェスタ2014」の一環として初めてブースを出展し、2

日間で当初予想を大幅に上回る3146人の来場者を集めた。

広報調査委員会

11月26日
本部会議室
出席委員等18人

100項目以上を整理 業界を知る「ガイドブック」

「社会に認められる業界であるために、業界の説明を正しく出来るようにするとともに、広く世の中に発信できる」ガイドブック制作の作業に入っている。

各委員から前もって送られた100以上の「ガイド項目」について、1項目ずつ検討し、取捨した。業界の歴史、社会にある誤解、店舗での状況などの分類をしながら、



業界の「ガイドブック」を検討した広報調査委員会

さらに詰めていくことになった。韓裕担当副会長から「作業は大変になるだろうが、尻すばみにならないよう形にするように」と指示があった。

「ファンアンケート調査」の速報値が報告された。今後分析作業が行われ、2015年1月の理事会で正式に報告される。協力店舗は181ホール、サンプル数は3281点だった。

風営法PPT

11月7日
本部会議室
出席委員等●人

賞品の提供など協議

本籍(外国人の場合は国籍)記載の義務を見直す「風営法」に基づく許可申請書の添付書類に関する内閣府令の一部改正」が10月17日に施行された。ホール5団体から要望の出ている既存従業員名簿の扱いについても「そのままでも違法ではない。しかし取扱いに注意」の見解が警察庁から出された内容を報告、確認した。

これらの成果を踏まえ、今後目指していく風営法の改正要望案について、賞品の提供方法に関する基準などが協議された。

社会貢献・環境対策委員会

11月7日
本部会議室
出席委員等11人

「子ども自然塾」次回は再来年に

10月25日に埼玉県嵐山町で開かれた共生の森「子ども自然塾」について総括したあと、次回の開催について検討した。隔年の開催をメドに考え、再来年の2016年に今回の「子ども自然塾」と同様な内容で実施する方向で作業を進めることになった。カブトムシ採集

をメインとした催しなども検討することになった。

東日本震災で被災した海岸林を復活させる「みどりの絆再生事業仙台共生の森」は5月16日に仙台空港東側で2か所目の植林を行ったが、新たに2か所の候補が上がってきた。

候補は、宮城県東松島市の国有林と福島県相馬市の国有林。ボランティア隊の交通や植林面積などを検討した結果、宮城県東松島市に決め最終的に林野庁と相談決定することになった。植林の実際についても、植える間隔など更に研究していくことになった。

「認知症予防」の臨床実験については、パチスロ機の開発提供を進めていくが、茨城大学以外への提供はしばらく先になる情勢との報告があった。

流通勉強会

「手数料徴収」で協議

流通勉強会が11月25日、日遊協

本部会議室で開かれ、景品卸会社代表ら8人が出席した。千葉県で10月1日から、手数料を徴収する新賞品流通システムが一部の賞品買取所でスタートしたことから、

その後の状況の報告を受け、問題点などを協議した。国会が解散したことで、IR法案の行方、依存問題など今後の動向を話し合った。

新経営者会議

「人事」と「顧客戦略」で2講演

第7回遊技産業新経営者会議(担当理事・韓裕副会長、リーダー・西村拓郎東京都・関東支部長)が11月28日、東京・丸の内(株)マルハン本社会議室で開かれた。会員企業から少壮経営者・幹部34人が参加した。2つの講演と質疑応答があり、懇親会で業種、企業の壁を越えて交流した。

まず、(株)マルハン上席執行役員・人事本部長兼人材開発部部长、松田昌益氏が「マルハンイズムの経営を支える人事システムについて」と題して講演した。松田氏は、創業57年のマルハンの源となる人材教育として、採用の在り方・戦略、従業員を支える人事制度・仕組み、従業員が織りなす文化・風土の醸成、さらになぜマルハンイズムは浸透しているのか等を詳説した。



マルハンの人事システムについて講演する松田昌益氏

次いで(株)デジタルガレージ・D&Iベクスカンパニー、マーケティングイングビジネス本部副本部長、矢野忠義氏が「顧客とのコミュニケーション戦略」と題して講演した。デジタルガレージは「食べログ」「価格.com」などのサイト関連で知られる。矢野氏は遊技業界の今後、顧客戦略等について外から観察し、改善の提案を行った。